

平成20年10月

平成20年度 病院経営調査報告（概要）

（社）全日本病院協会
医療保険・診療報酬委員会

全日本病院協会は、平成5年より定期的に5月の病院収支状況を調査している。平成20年度も協会役員、代議員および各県より無作為抽出した会員病院を客体として、500病院に対して病院経営調査を実施した。

平成20年は診療報酬改定が行われ、今回の改定は、医療本体増（+0.38%）、全体改定率（-0.82%）であるが、本調査結果では、病院の収支は平成19年度調査と比較して約2%悪化していた。

特に一般病床は医業収支・総収支とも全体平均で赤字になっており、また、大規模病院ほど収支が悪いという結果であった。このような状況が続けば、急性期病院を中心に、日本の病院そして医療が崩壊していくのではないかという将来を示唆する調査結果となった。

【平成20年度病院経営調査結果のポイント】

1. 平成20年度の病院経営調査は、回答病院288（調査客体数500病院）、回答率57.6%であり、回答病院数は昨年と同数であった。
2. 病院収支は、医業収支では平成19年度の104.2%から102.3%、総収支では103.9%から102.0%と、いずれも△1.9ポイントと経営悪化を認めた。
3. 特に、指定都市では医業・総収支率ともに△4.1%と悪化が著しかった。
また、東京は、医業収支率で54%の病院が赤字であった。
4. 病床種別では、「一般病床のみ」は医業収支率・総収支率ともに99.6%であり、平均で赤字であった。
5. 病床規模別では、「20床～199床」が104.6%と比較的良く、「200床以上」の収支率は100.2%と悪かった。
6. DPC対象病院（38病院）の収支率は、非対象病院（250病院）より悪い。これは、DPC対象病院が一般病床かつ大規模病院に多いことによるものと思われる。
7. 看護基準は、より上位である7：1、10：1を取得する病院数が増えているが、それによる収支率の好転は認められない。
8. 平成19年度・20年度の比較では、全回答病院の比較・2年連続回答の同一病院（216病院）の比較ともに、下記のような傾向を認めた。
 - ① 病床利用率の減少（1%以上）
 - ② 外来患者数の減少（5%以上）
 - ③ 医業収支率の悪化（約2%）
 - ④ 給与費率の増（1%以上）

以上